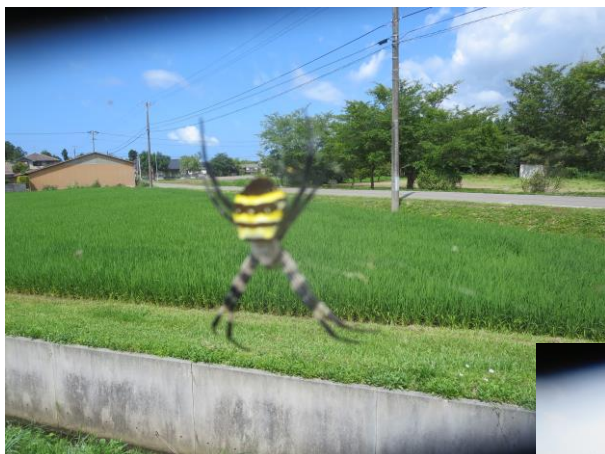


長畝ふるさと通信

【2016年7月号】

■ 梅雨も明け、毎日暑い・暑い

7月20日、佐渡を含む北陸地方も梅雨明けしました。毎日暑い日が続いております。7月は適度に雨が降り、適度に晴れてくれたので田んぼの状態は◎、豊作が期待されます。25日に発表



されたJAの最新情報では草丈83センチ、茎数419本/m²、葉数は12.1枚となっており、組合の圃場もほぼ同レベルとなっています。18日には五百万石、25日にはこしいぶきが出穂し、穂揃いしてきました。コシヒカリは8月5～7日頃出穂の予定で、例年より4～5日早くなりそうです。



■ 最も暑い夏が来る？

NASAは「観測史上最も暑い夏になる」と予測したそうで・・・その最大の原因は地球温暖化の最大要因である温室効果ガスとなる二酸化炭素ですよね。これって最大の排出国は確かアメリカでは？自分のことは棚に上げて予測するってタイした国です。みなさんも体調管理には充分気をつけて酷暑を乗り切ってください。

■ 長野へ先進地視察

7月21～22日、3年に一度の組合研修旅行で長野県栄村にあるライスセンターを視察しました。施設の規模は我が社とほぼ同レベルの100haクラス。5年前の地震による復興援助を得て2



億5,000万円をかけて建設したそうです。1日に60トンの籾を受け入れる能力があり、予備貯留タンクや処理能力の高い臼摺機や玄米色選機、自動計量器や自動配積み機まで揃って、まさに万全の体制を整えています。しかもここで生産されたお米の大半は「ふるさと納税」の景品として取り扱われるとのこと、売る心配も要らないとか・・・

30年前の部品すら無くなった設備を未だに使っている我が社とは大違いです。

右写真は2,000万円もする玄米色選機。
豪雪地帯なので建物の構造も相当強い作りとなっており、どれを見てもうらやましい限りでした。出来ることなら宝くじで7億円当てて全面改修したいところですが・・・



視察を終えて近くの「野沢温泉」にて一泊。温泉街には13カ所も無料で入れる「外湯」があり、早速温泉巡り。ところが源泉掛け流しのお湯の温度は50度近い熱湯風呂で、10秒と我慢できないほど、ビールがすすみました。

■ 大阪商談会

7月17日、毎年恒例の大阪商談会に今年も出展しました。出展者数は24件。中でも目を引いたのは「大阪いっちゃんうまい米コンテスト」で2年連続1位を取った広島・庄原のアイガモ農法コシヒカリ。とうとうゆるキャラ「あいがももん」まで引き連れての出展です。



お隣は「日本一うまい」と豪語する岐阜の「龍の瞳」。自然とお米屋さんの足もボクを通り越してお隣さんへ。また、写真奥には(小さくて見えませんが)福島が県を上げて推す新ブランド米「いなわしろ天のつぶ」が綺麗なキャンペーンガールをブースに展開しています。どこの産地も「お米戦国時代」突入とばかりに、様々

な手法を用いてアピールに余念がありません。佐渡の「トキ米」はというと・・・ブースには派手さは全くありませんが、JAで用意した試食米は好評。「やっぱり佐渡の米は安定してうまい！」とはある関係筋からのお声。コメづくりに合う環境のもと、自然と仲良くしながらつくるコメはやっぱりうまいということでしょうか。ありがたや、ありがたや。





■ 共同の力、ふるさとにあり！

田んぼの脇を流れる新穂川の堤防。生い茂った背丈ほどもある雑草を共同の力で刈っています。以前は市の予算で業者が請け負っていたこの作業も予算が縮小され、今では地元の自治組合が行っています。長畝集落では「水利維持管理組合」が主体となっておよそ30人程が朝6時から2時間かけてこの大きな土手の草刈りを行っています。早朝とはいえ梅雨真っ最中の作業は汗びっしょり。比較的若い連中がこの時ばかりは大活躍。斜面幅6～7メートル、全長300メートル程の土手草がばっさばさと刈り倒されていきます。「除草剤」や「野焼き」で簡単に処理する地域も有りますが、やっぱり緑の景観を台無しにしてしまいます。「自分たちのふるさととは自分たちの手で守り引き継ぐ」を合い言葉にこれからも大切にしたい共同作業です。

■ 28年産米も引き続きご愛顧下さい

28年産米の会員予約注文書を同封させていただきます。引き続きご愛顧下さいますよう、心からお願ひ申し上げます。特別なことは何も出来ませんが、当たり前のこと続けていきたいと思っています。

炎天下の中、黙々と田んぼの溝切り作業をする男 →
重たい肥料を背中に背負って田んぼの端から端まで追肥をする男。朝早くから毎日田んぼの水を見て回る男。
コメを作るための当たり前の仕事ですが「ポケモンGO」に没頭するほどヒマはありません。

おかわりは自由です

